

- 事業者の皆様へ -

STOP! 転倒災害

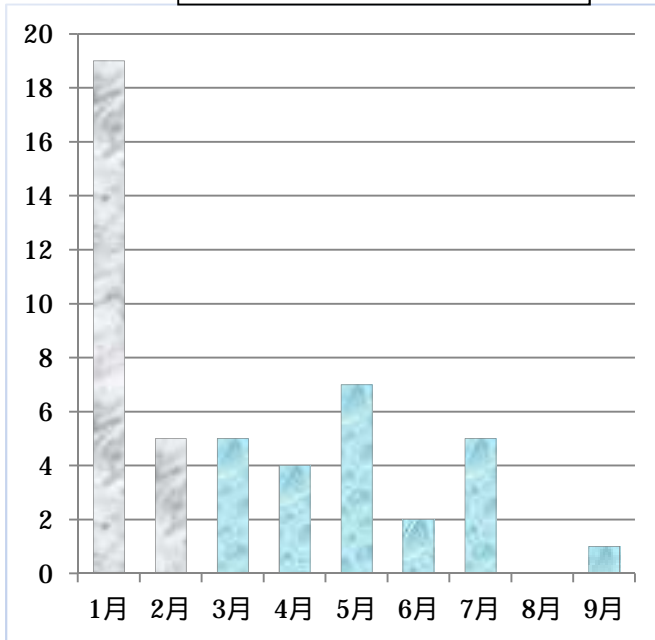
【冬季の転倒災害を防ぎましょう】

平成29年に発生している転倒災害の50%が1月～2月の冬季に発生し、その71%が積雪・凍結による災害です。

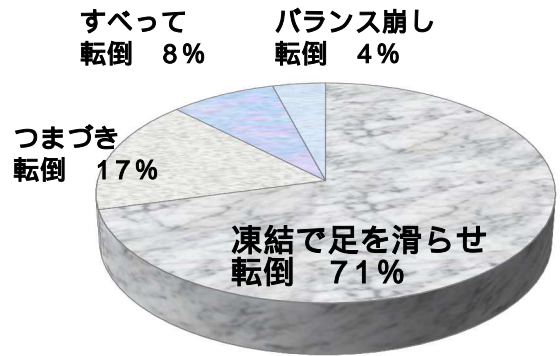
(9月末時点)

これらの転倒災害により、仕事を休業した日数は平均で1か月にもおよびます。

平成29年 転倒災害発生月



平成29年 冬季の災害型別



積雪・凍結などで転倒災害のリスクが高くなる冬期間は裏面の対策が特に重要です。



仕事中に転倒して4日以上休む方は年々増加の一途をたどっています。積雪・凍結などで転倒災害のリスクが高くなる冬期間は以下の対策が特に重要です。

天気予報に気を配る。

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し、早めの対策を実施しましょう。時間に余裕をもって歩行、作業を行う。

時間に余裕をもって出勤し、落ち着いて作業をするよう心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を付けて歩くようにしましょう。

駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などに注意する。

駐車場内、駐車場から職場までの通路を確保するため、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口では転倒防止用マットを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさを確保しましょう。

危険マップの作成、適切な履物などの確認。

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物等の確認を行いましょう。

転倒しないための靴選びのポイント。

[サイズ]: 小さすぎても大きすぎても踏ん張りがきかず、バランスを崩しやすくなります。

[屈曲性]: 屈曲性が悪いと、すり足になりやすく、つまづきの原因になります。

[重量]: 重すぎると足が上がりにくくなり、つまづきの原因になります。

[重量バランス(前後)]: つま先方向に重量が偏っていると、歩行時につま先が下がり、つまづきの原因になります。



[つま先部の高さ]: つま先の高さが低いと、ちょっとした段差にも、つまづきやすくなります。



[防滑性]: 靴底が滑りにくいこと。やわらかいゴム底のものはゴムがすり減っていないかもしっかり確認しましょう。

[撥水性・防水性]: 水分が靴の中に入り込まないこと。

[保温性]: 靴の中を温かく保てること。



津山労働基準監督署